

歴史・文化の街

大村の歴史と文化

大村が生んだ偉人

福祉と教育の先駆者



石井 筆子

衆議院議長を務めた



楠本 正隆

三十七士の剣の達人



渡辺 昇

明治維新達成に活躍



渡辺 清

「歴史」

大村の歴史は古く、黒丸遺跡や富の原遺跡に見られるように、太古から人々の生活が営まれてきました。

中世になると、大村氏が彼杵郡を中心に活動し、大村に城下町を築きます。戦国時代の領主大村純忠は日本初のキリシタン大名となり、キリスト教の布教や南蛮貿易を進めます。純忠は、領地の長崎を貿易港として開港し、後の天領長崎の基礎を築き、初の公式ヨーロッパ訪問団である天正遣欧少年使節をローマへ派遣するなど、歴史に残る偉業を成しました。

江戸時代、幕藩体制のもと、大村氏が藩主となり、大村藩は2万7千石の城下町として栄えます。海外との窓口であった長崎と各地を結んだ長崎街道が通り、宿場町としてもにぎわいました。「郡崩れ」などのキリシタン禁教問題もありましたが、改易転封もなく大村藩は明治まで続きました。

幕末には、渡辺清・昇兄弟や楠本正隆らが、各藩の志士と連携を強め、早

「文化」

くから勤王を掲げ、新政府側として薩摩藩や長州藩と協力し、倒幕に活躍します。大村藩が薩摩・長州・土佐に次ぐ3万石の褒美を賜ったことは、その貢献度の高さを表しています。

明治以後は、陸軍や海軍航空隊が置かれ、都市の整備が進み、海軍航空廠の設置による人口増などから昭和17年に大村市が誕生しました。

「シーハットおおむら」は、市民の文化活動に幅広く活用されています。

また、「長崎OMURA室内合奏団」は、県内初の本格的なプロ合奏団として市民に身近な活動を行いながら、市外にも活動の場を広げています。

「大村の郡三踊(寿古踊・沖田踊・黒丸踊)」は、約500年の歴史があり、寿古町、沖田町、黒丸町にそれぞれ伝わる大村の民俗芸能で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

国指定重要無形民俗文化財「大村の郡三踊」



黒丸踊



沖田踊



寿古踊